

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立東山代小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究や職員研修によって教職員一人ひとりが資質の向上に努めたことが、児童の学習意欲の向上につながった。また、算数科では、CRT検査において前年度より8.5ポイントの改善が見られている。来年度も引き続き個別最適な学びと協働的な学びのある授業づくりの工夫を行うことで、さらに児童の学習意欲の向上を図りたい。 ・今年度も「心の教育」や「健康・体づくり」については、概ねアンケートでの目標を達成した。しかしながら、不登校児童や相談室対応児童、保健室来室児童など、支援を要する児童の数は増える一方である。児童や家庭への支援、SC、SSW、関係専門機関との連携をさらに密にしていける必要性を感じる。 ・来年度も特別支援教育の充実や業務改善への取組を進めていくことで、さらなる学力の向上に努めていきたい。また、複合施設の強みを生かし、地域との連携をさらに深め、コミュニティ・スクールとしての学校づくりを充実させていく。
2 学校教育目標	<p>思いやりの心をもち、意欲的に学ぶ児童の育成</p> <p>～ 人にやさしく、真面目にがんばる子！ ～</p>

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 学力の向上：やる気を引き出す指導の工夫 家庭学習の習慣化 基礎・基本の定着に向けたスキル学習等の提示、実践 家読の推進 ② 豊かな心の育成：自己有用感を育む学級経営 心をゆさぶる道徳教育 仲間づくり 感動体験活動 郷土愛を育む活動 ③ 健やかな体の育成：体育の充実と運動の生活化 保健指導の充実と食育の推進 ④ 特別支援教育の充実：一人ひとりの実態の把握 集団における授業の工夫や合理的配慮
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○児童全員が主体的に参加する授業の実践	○児童アンケートで「授業が楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合85%以上	・個別最適な学びと、協働的な学びのある授業づくりの工夫を図る。	B	・多くの学級で、自力解決場面や練習問題に取り組み場面でも個に応じた指導をすることができたので、児童の意欲の向上が見られつつある。 ・学年のレベルに合わせた自主学習に全校で取り組み始めた。引き続き取り組み、主体的に学ぶ意欲を高めていきたい。	B	・年間を通して個に応じた指導を行う等の「個別最適な学び」を大切に授業を展開できたことで、アンケートでは「授業が楽しい」と回答する児童が86%に達している。一方、学び合いで自分の考えを伝えることに抵抗がある児童が約20%だったので、引き続き「協働的な学び」のある授業づくりに取り組んでいた。 ・全校で自主学習に取り組むことで学習意欲の向上を図ることができた。今後は、質を向上させていけるよう指導を継続していきたい。	A	・「授業が楽しい」と答えている児童の割合が86%に達していることからAと評価できる。 ・授業の一端としてコミュニティセンターに児童が来館した時も、元気に質問する姿を見たと、楽しく授業で学んでいると感じる。	・研究主任 ・研究副主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートで「思いやりのある行動をしようとしている」と肯定的な回答をした児童の割合85%以上	・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・「ふれあい道徳」や平和集会、人権集会等の学校行事の充実	B	・夏季休業中に、講師招聘による道徳科における授業づくりの理解を深める研修を実施した。 9月10日に、ふれあい道徳を実施した。事前に道徳通信を配付したり、参観後にアンケートを行ったり、家庭と学校が一体となって子ども達を育てることができるようになった。	A	・アンケート結果では、「思いやりのある行動をしようとしている」と回答した児童が91%に達している。また、「学校はそのための教育活動を行っている」と回答した保護者は95%にも上った。人権週間取組では、子どもたちが話し合い、実践したことで、自分たちの問題として考えることができた。各学年に応じた平和学習や人権学習を通して、自他の違いを受け入れ、お互いを認め合う心が育ってきている。今後も、行事の取組が実生活につながるような工夫を考えた。	A	・同級生と思われる児童がけがをして車椅子や松葉づえで学校に登校している時に、けがをした子の周りに児童が寄り添っているのを見ると、思いやりのある行動ができてきていると思う。 ・よ(挨拶)をしてきて、嬉しそう。 ・保護者にも教育活動の内容が伝わっている。これからも思いやりあふれる学校にしていきたい。	・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止等(防止のための取組、事案対処等)」について組織的対応ができています」と回答した教員90%以上	・心のアンケートを実施し、児童の実態把握といじめの早期発見を行う。 ・気になる児童についての情報共有を行うとともに、毎月情報交換会を実施する。 ・SC、SSW、関係専門機関との連携を図る。	B	・定期的な心のアンケートの実施で、児童の実態把握や問題の早期解決につなげた。また、6月と10月に教育相談期間を設定し、児童全員が担任と話す機会を設けた。 ・必要な時に情報共有できている。今後は、定期的に時間をとって情報共有していきたい。 ・SC、SSW、関係専門機関との連携を図っている。	A	・アンケートでいじめ防止等について組織的対応ができています」と回答した教員は100%であった。また、児童や保護者アンケートでは同様の項目に対する肯定的な回答が約90%だった。定期的な心のアンケート(いじめアンケート)の実施により、児童の実態把握や問題の早期解決につながっている。また、気になる児童の情報については、その都度担任がデータ入力をしてたり連絡会で報告し合ったりして全職員で共有した。 ・気になる児童については、SCやSSWと連携を図っている。	A	・いじめ防止対策委員会や報告会を開く範囲となるが、学校は真摯に取り組まれていると思う。 ・しっかりといじめを防ぐという体制を整え、いじめを許さないという学校側の思いが子ども達にも伝わっている。みんなが安心して通える学校にしていきたい。	・人権・同和教育担当 ・生徒指導担当 ・教育相談担当
●健康・体づくり	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・6年間を通して、専門の各講師を招いて様々な体験活動を実施する。 ・各種体験活動では、児童による活動の見通しと体験した学びの振り返りを充実させる。	B	・専門の講師を招き、子どもたちが体験を通じて夢や目標を持つよう取り組んでいる。6年生は、県立宇宙科学館の方に来ていただき燃焼爆発実験ショーを体験したり、アスリート派遣による体育授業では、元WJリーグ川面選手より直接指導してもらった。今後、4年生は、野鳥の会の方をお願いして、産学と野鳥観察を行う予定である。また、ものづくりマイスターを招いて、方筆づくりを行う予定もある。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童が93%で、成果指標である85%を上回った。児童の自己有用感を高めるために、「ほめて伸ばす」指導を今後も継続していきたい。 ・様々な体験活動を実施した成果として、アンケートで「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童が86%であった。体験活動はすでに充実している。次のステップとして体験活動を「書や目標」に結び付ける仕掛けを強化し、さらに「職業観」と結び付ける工夫を加えることで、効果を高めていきたい。	A	・体育館や屋外で行われる体験活動において、児童の元気な声が響いてくる。楽しく授業を受けていると思われるので、今後も子どもたちの夢や目標につながるような取組を期待している。 ・様々な体験活動の機会が確保できていると感じる。 ・更なる向上を目指して頑張っていきたい。	・教務主任
	●「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝・早起き・朝ごはん」を奨励し、保護者アンケートで肯定的な回答をする割合90%以上	・給食担当による講話(放送)や担任による保護者への望ましい生活習慣の大切さを理解させる。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の動行を保健だよりや給食だよりで年間を通して行う。	B	・給食担当による放送を通して、望ましい生活習慣の大切さを伝える。また、栄養教諭が1年生に対して3つの栄養素についての授業を行った。 ・6月の食育月間では、食育だよりにて朝ごはんの大切さを伝えた。	A	・アンケート結果では、「学校は、望ましい生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)の指導に取り組んでいる」と回答する保護者は95%であった。前期行っていたことに加え、昨年実施していた「朝ごはん日記」を11月に実施し、自分自身の食生活を振り返る機会を設けた。今後も朝ごはんの大切さを伝えていくと、睡眠の大切さについても伝える場を設けていきたい。	A	・児童の食生活や睡眠は、児童が健康に生活を送る上で大切なことであり、今後も継続して取り組んでほしい。 ・特に朝ごはんの大切さを伝えてほしい。 ・様々な取組により、望ましい生活習慣の形成を図る体制づくりができていていると感じる。	・給食担当 ・栄養教諭 ・栄養教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○「安全に関する資質・能力の育成」	○交通安全教室や事件に巻き込まれることを防ぐとともに、性に関する指導の授業を発達段階に考慮して行う。	・交通安全教室や避難訓練を行い、事故防止に努め、防犯意識を高める。 ・「性に関する年間指導計画」に基づき全学年で性教育を行うとともに、講師を招いた講演会を開いて理解を深める。	B	・低学年への交通安全教室や、複数の避難訓練を計画的に行うことができています。 ・「性に関する年間指導計画」に基づき、養護教諭が授業を行った。昨年同様、今年度も助産師を講師に招き、5年生に命の授業をしていただいた。	A	・年間を通して、計画的に避難訓練を実施したり、安全についての指導を集会や放送などで行ったりすることで、児童の安全意識を高めることができた。 ・アンケート結果でも「学校は、安全に関する教育及び性教育に取り組んでいる」と回答する保護者は、90%であった。今後も子どもたちの発達段階に合わせた指導を行うとともに、保護者への啓発も充実させていきたい。	A	・災害は起きてからでは遅いので、普段から危機管理については取組を行う必要がある。今回、津波の避難訓練に参加したが、頭で考えるだけではいざという時に動けないと思われるため、避難訓練を実施しておくことは大切である。今後も訓練を実施してほしい。 ・計画的に様々な訓練を実施していることが保護者にも伝わっている。ネット上の危険についても、ぜひ子どもたちの意識を高めてほしい。	・生徒指導担当 ・養護教諭
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日を設定する。 ・管理職または職員による業務改善を進め、全職員の意識改革を図る。	B	・全職員の時間外在校等時間平均は約27時間で、前年度の同時期より約1時間減少している。 ・職員の年次休暇取得日数平均は9日である。 ・全職員が「働き方改革」を取り組む環境作りを行ったりしていききたい。	B	・職員の時間外在校等時間は平均約27時間で、前年度より1人当たり約1時間増加している。また、職員1人当たりの年次休暇取得日数は平均12.6日であり、14日以上取得している職員は1人(26%)であった。今年度は新卒者のスタートとなり、体制作りによる多忙の時間を費やしたので、来年度は今年度の取組をさらに、効率よく業務を進めていきたい。 ・アンケートで「働き方改革」に取り組む、計画的に業務を推進している」と回答する教員が95%いることから、意識改革は着実に進んでいると考える。	B	・職員の方針改革に努めることは、職員の健康管理の面においても大切なものである。先生が健全であれば、教えられる子どもたちも健全に育つと思うので、今後もぜひ取り組んでほしい。併せて業務の効率化も進めてほしい。 ・有給は出来るだけ取得するよう、その環境整備に努めてほしい。	・教頭 ・業務改善委員会
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○児童の実態を把握し、一人ひとりに応じた対応を行ったと回答する教員90%以上	・特別支援教育に関する校内研修等の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有を密に行う。 ・関係専門機関との連携を図る。	B	・児童理解とよりよい支援に生かすことにつながるよう、講師を招聘しての研修会を実施し、教員の意識を高めた。 ・児童の気になる行動についてケース会議を早めに開き、組織的な対応を考えたり支援を実施したりするよう心がけている。また、保護者との連絡を密にしながら、その子に合う支援を考え対応している。	A	・「児童理解とよりよい支援に生かすことにつながるよう、講師を招聘しての研修会を実施し、教員の意識を高めた。」と回答する教員が100%であった。日々の児童支援について情報共有やケース会議等を継続して行ったり、年5回の職員研修を行ったりしたことで、児童への理解とよりよい支援について教員の意識を高めることができた。今後も、早期対応やよりよい支援を目指して研修などを行ってほしい。	A	・コミュニティセンターの事務室から、児童が一人で歩いている後を先生が見守って行っているのを見かけた。児童に寄り添いながら対応できていると感じる。先生方の業務負担が増えるかもしれないが、今後も児童支援に努めてほしい。 ・先生方も大変だと思うが、資質の向上にも努めてほしい。 ・情報共有をしっかりと行っているところがよい。	・特別支援コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○教職員の資質向上	○教職員の授業力向上	○児童アンケートで「授業が楽しい」と肯定的な回答をする割合を85%以上、保護者アンケートで「学校は子ども達の学力向上に取り組んでいる」と肯定的な回答をする割合を90%以上	・職員同士が切磋琢磨できる環境づくりとして、相互授業参観ができるシステムを設定する。 ・学年やグループ間の連携を図り、授業づくりについて日ごろから相談しやすい環境をつくる。	B	・授業参観月間中に、ほぼ全担任が1回以上授業を公開参観することができた。今年度は特別支援学校の公開が増えた。 ・授業参観月間での意見交換を通して、普段から教材研究についての情報交換がしやすい環境ができつつある。	A	・アンケート結果では「授業が楽しい」と回答する児童の割合は86%、「学校は子ども達の学力向上に取り組んでいる」と回答する保護者の割合は95%であり、どちらも目標を達成することができた。 ・授業参観月間を設定したり、全職員が実践発表をしたりすることで、授業づくりについて意見交換する場を設けることができ、授業力の向上につながった。来年度は、学年やグループ間で相談し合う場の設定を行ってほしい。	A	・無理なく、先生方がお互いに切磋琢磨しながら授業力向上に努めていってほしい。 ・これからも子ども達にとって楽しい授業になるようがんばってほしい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
○開かれた学校づくり コミュニティ・スクール	○地域と連携した体験活動の推進 ○積極的な情報発信	○地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を深める。 ○保護者アンケートで肯定的な回答をする保護者90%以上	・コミュニティセンターや地域学校協働活動推進員と連携し、体験活動の充実を図る。 ・学校だよりや懇談会等を活用し、学校の取組について知らせる機会を設ける。	B	・1・2年生では芋苗植え、3年生では野菜集荷センターや梨運果場の見学を行うなど、地域学校協働活動推進員と連携した活動を行った。 ・学校だよりや学級だより、ホームページ等を活用して情報を発信している。	A	・アンケート結果では、「学校は、地域ボランティアや講師を招いて様々な体験活動を実施している」と回答した保護者が96%であった。地域の方をお呼びして様々な体験活動を実施することができ、連携を深めることができています。今後は、該当する学年だけでなく、ホームページ等を活用して地域へ情報発信を続けていきたい。	A	・情報発信は十分にされていると感じる。 ・今後も地域とともに教育活動を行ってほしい。 ・コミュニティセンターの見学は、施設が持つ情報を知ることもあるが、コミュニティセンター職員との交流を図る方法の一つでもあるため、今後も継続して実施してほしい。	・教頭 ・教務主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育	<p>5 総合評価・次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が共通理解・共通実践を行い、様々な活動に組織として取り組めたことが目標達成につながっている。また、情報発信を行うことで保護者の理解や地域の方の協力を得ることも概ねできている。今後も継続していき、更に児童の学力向上に努めていきたい。 ・問題行動や不登校児童に対しては、SCやSSW、関係専門機関と連携しながら指導や支援に努めてきた。今後も継続して行ったり、研修などを通して教職員一人ひとりの資質・能力を向上させたりしながら、すべての児童が安全に安心して通える学級・学校づくりに取り組んでいく。 ・今年度はコミュニティセンターで児童の作品展覧会を行ったり、連携して避難訓練を行ったりした。今後も複合施設としての可能性を探りながら来年度は新たな取組にも挑戦し、コミュニティ・スクールとしての学校づくりをより充実させていきたい。 ・働き方改革については、その意義を教職員にしっかりと伝えていくことで理解を上げ、業務改善については、事務職員とも協力しながら推進していきたい。
---------------------------	---